

氏名	林 泰 明
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 4 0 3 号
学位授与の日付	昭和44年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	広汎な脱髄を示す2相性脱髄性脳炎の1剖検例 —Transitional Sclerosis との文献的比較考察—
論文審査委員	教授 小川 勝 士 教授 妹尾左知丸 教授 西 本 詮

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

多発性硬化症 (MS) と Schilder 病は両者の間に移行型 (Transitional Sclerosis=Trs) のあることから、本質的には同じプロセスの異なった現われとみる立場が欧米では伝統的である。本論文では MS 様の孤立巣と Schilder 病にも比すべき広汎な脱髄巣を有する脱髄性脳炎の症例を中心に、MS および Trs などと文献的に比較研究した。論文の前半では本症例の臨床像、病理所見を報告し、従来の脱髄性脳脊髄炎との鑑別診断を行い、臨床像は MS として理解できるが、病巣の広汎・寡発性、連続性という特徴は Schilder 病に通ずることから Trs への近似性を述べた。しかし、Trs についてのまとまった文献がないため、後半においては文献上 Trs に入れうる 30 例の臨床病理所見をまとめた。その結果本症例の汎発巣は Trs の場合とは局在が異なり、むしろ非定型急性 MS の 2 文献例のものに近いことを見出した。結論として本例は慢性 MS の不全型に位置づけられるものと診定した。

論文審査の結果の要旨

本研究は、Schilder病様の広汎な脱髄巣を伴う多発性硬化症の一不全型を剖検し、移行型硬化症や既知の脱髄性脳脊髄炎との比較検討を行ったものであるが、従来混乱の多いこの種疾患の鑑別に貴重な知見を加えたものとして価値ある業績と認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。